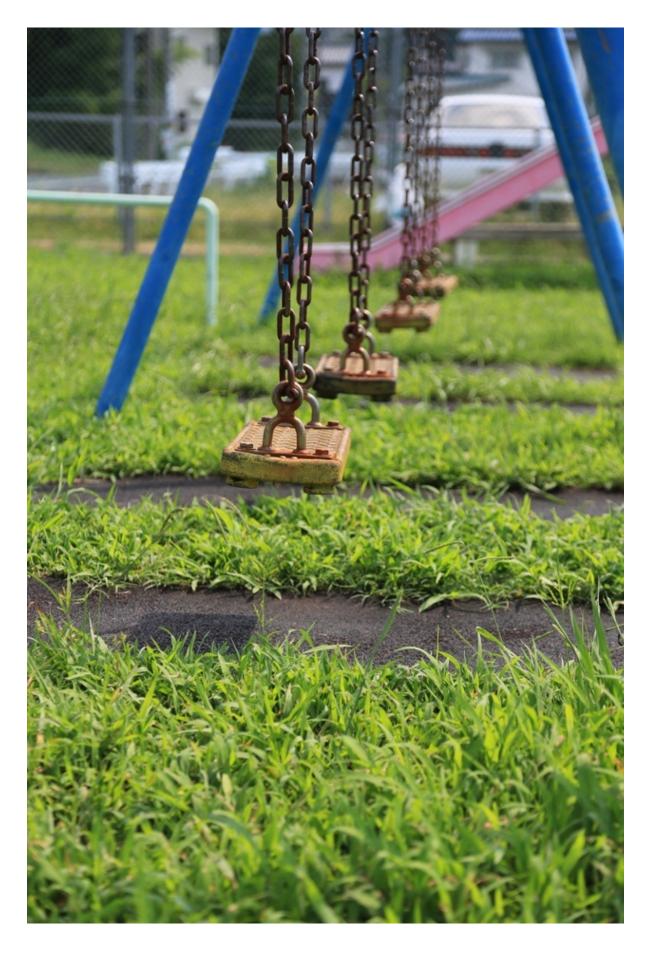




こどものころ、"夏のふるさと"とかいうドラマがあった。 そのことはもう覚えていないけど、夏になるといつも そのテーマ曲を思い出す。

"晚夏"



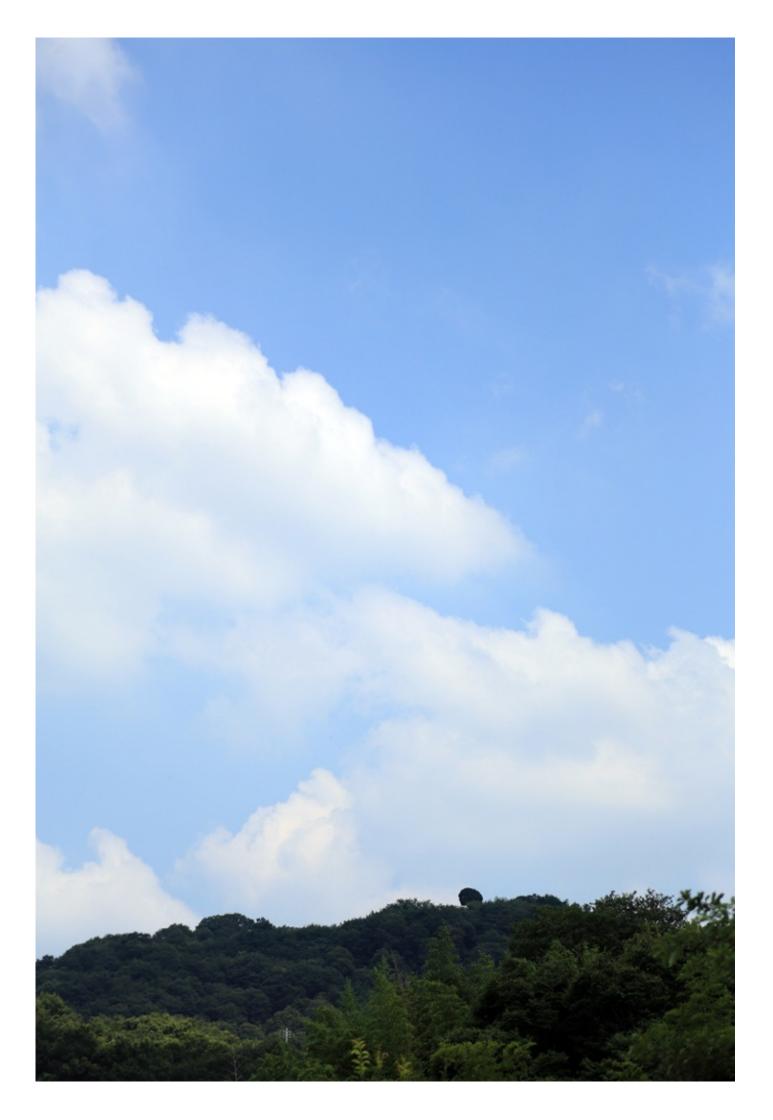
ふるさとに、ふるさとらしい思い出はない。 子供時代を過ごしたことと、 あのころは、バカだったなってことぐらいしか 覚えていない。



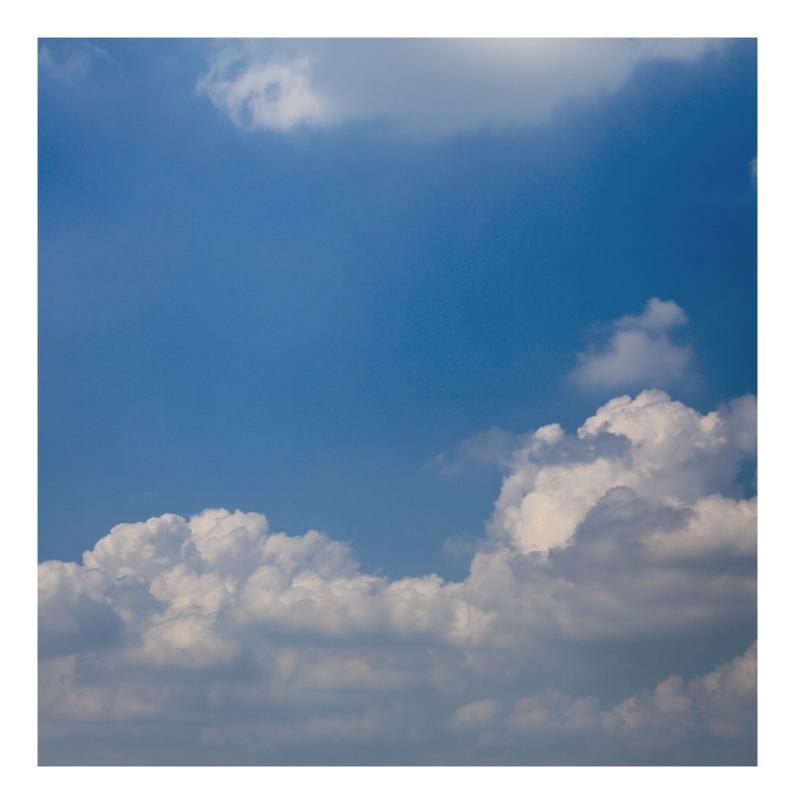
ここを離れて、もう30回以上この田んぼは 稲穂を実らせたんだなあ。

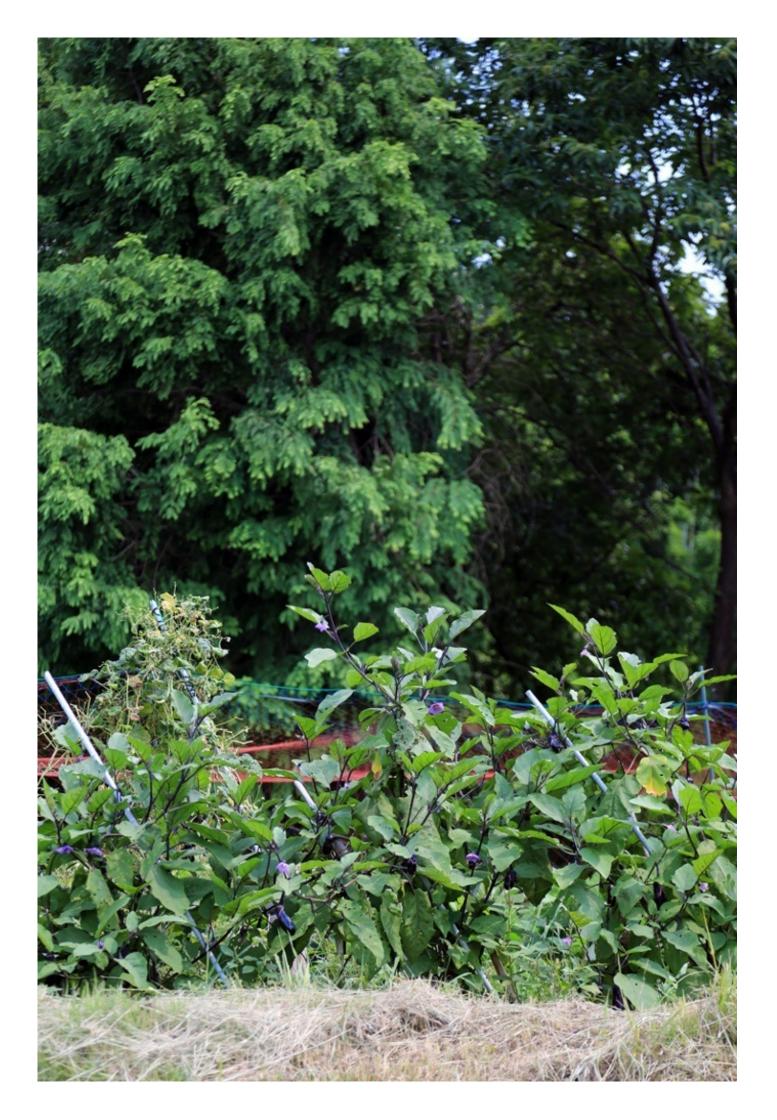


随分変わってしまったけれど、 それでも空が広く、山の緑が近くて、 磨いたように空気がきれいで、静かだ。

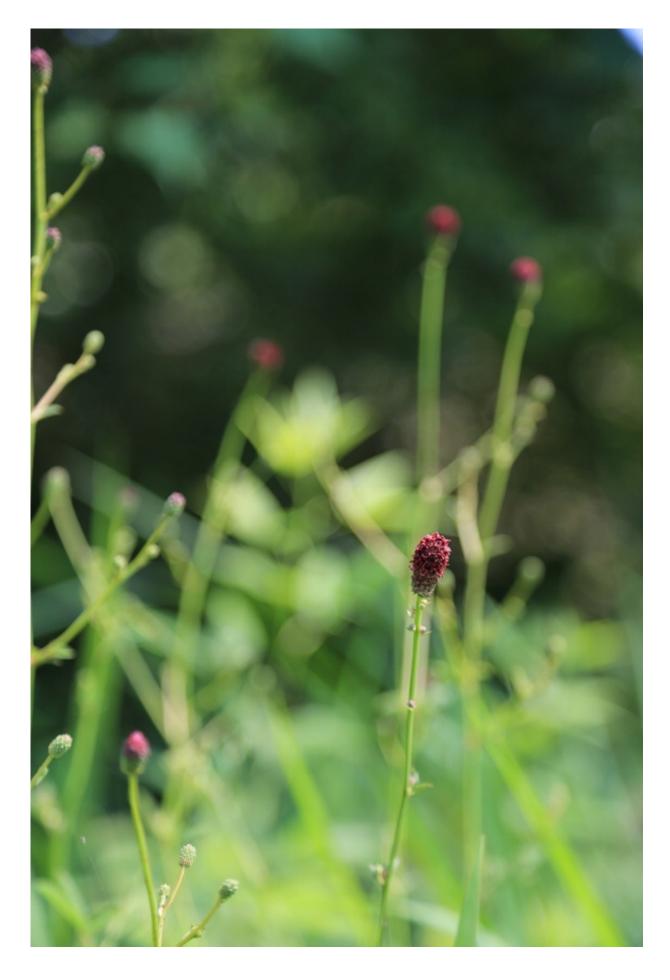


確か、海の見える街に住んでみたかったんだよ。 旅行先が山だったら、げっそりしたんだっけ。

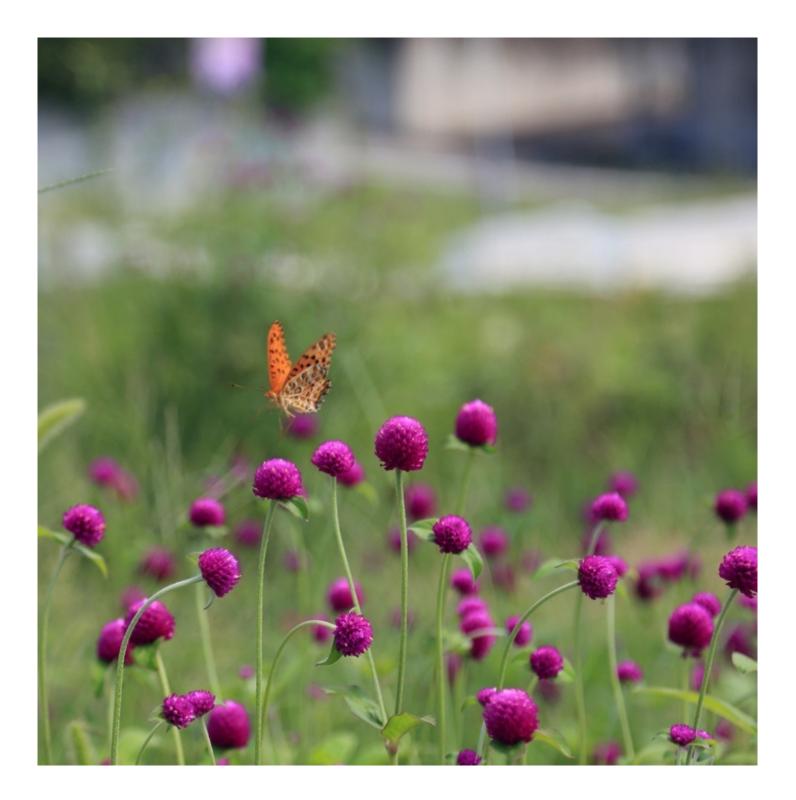


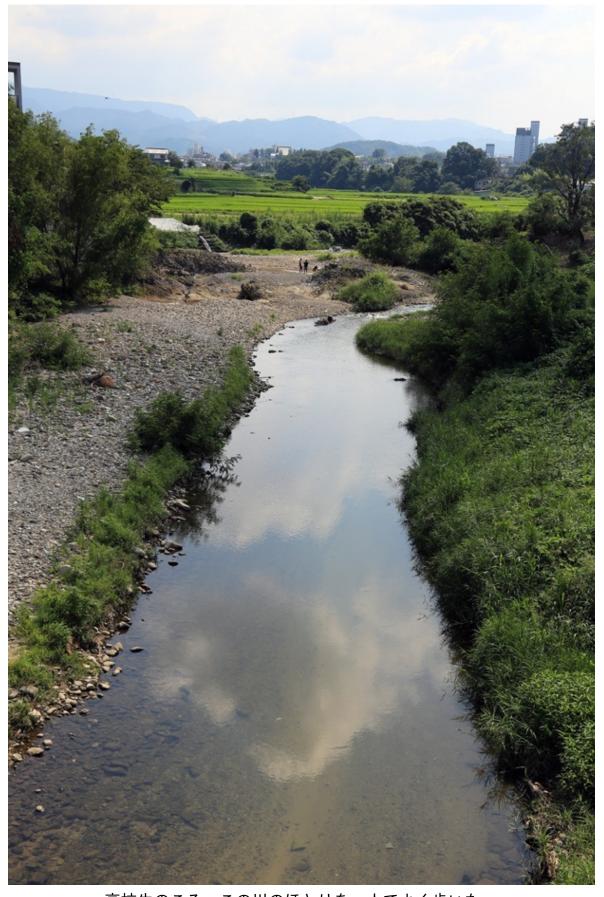


スーパーで茄子を買う人は、茄子の花とか どんな風に実がなっているとか、 葉に虫がついてもりもり食いやがることなんて 知らないんだろうな。



お月見のころには、野原を歩いてススキや吾亦紅を 集めて、花瓶にさして月を眺めた。 白玉だんごは、飾る前に食べちゃった。





高校生のころ、この川のほとりを一人でよく歩いた。 歩いても、何も変わらない。 歩いても、何もわからない。 でも、季節だけは過ぎていった。



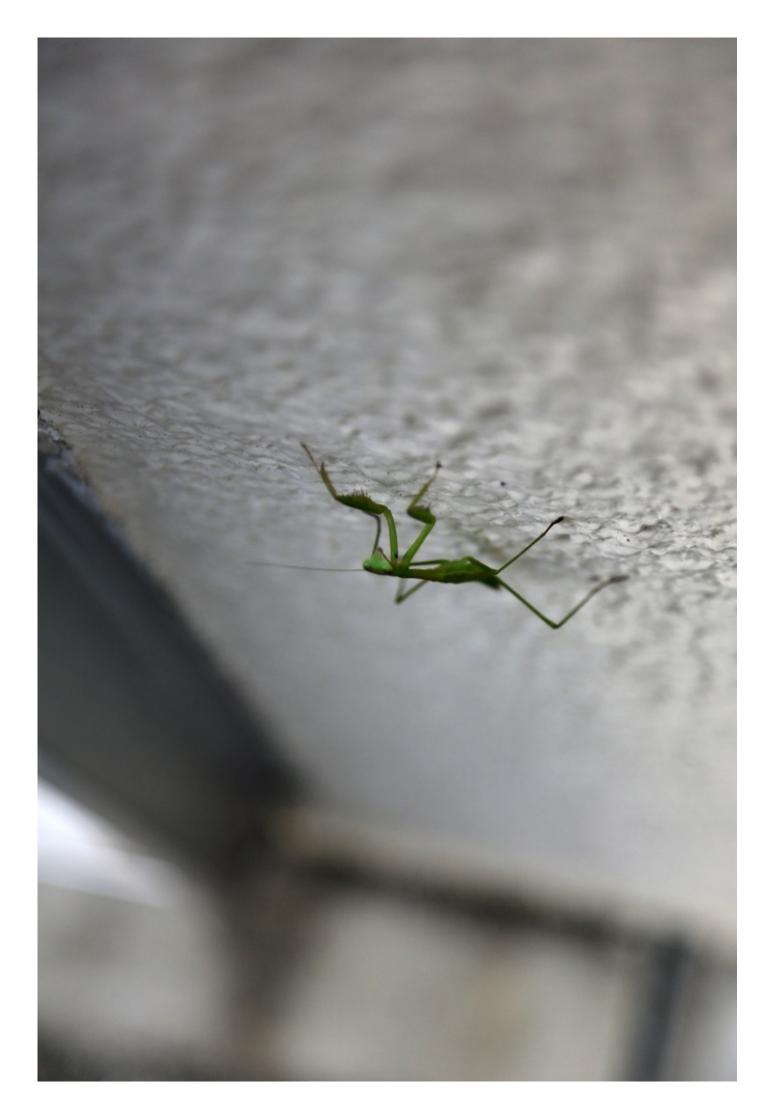
何千回とこの橋を渡り、何千回とあの坂を登った。 川で遊んだ後、裸足で歩くと暖かくて気持ち良かった。



桜並木が消えて、家が新しくなって、 昭和初期の、大阪の離座敷のような雰囲気は 跡形も無くなってしまった。



渋柿。さすがにこれは、そのまま食べたことがない。

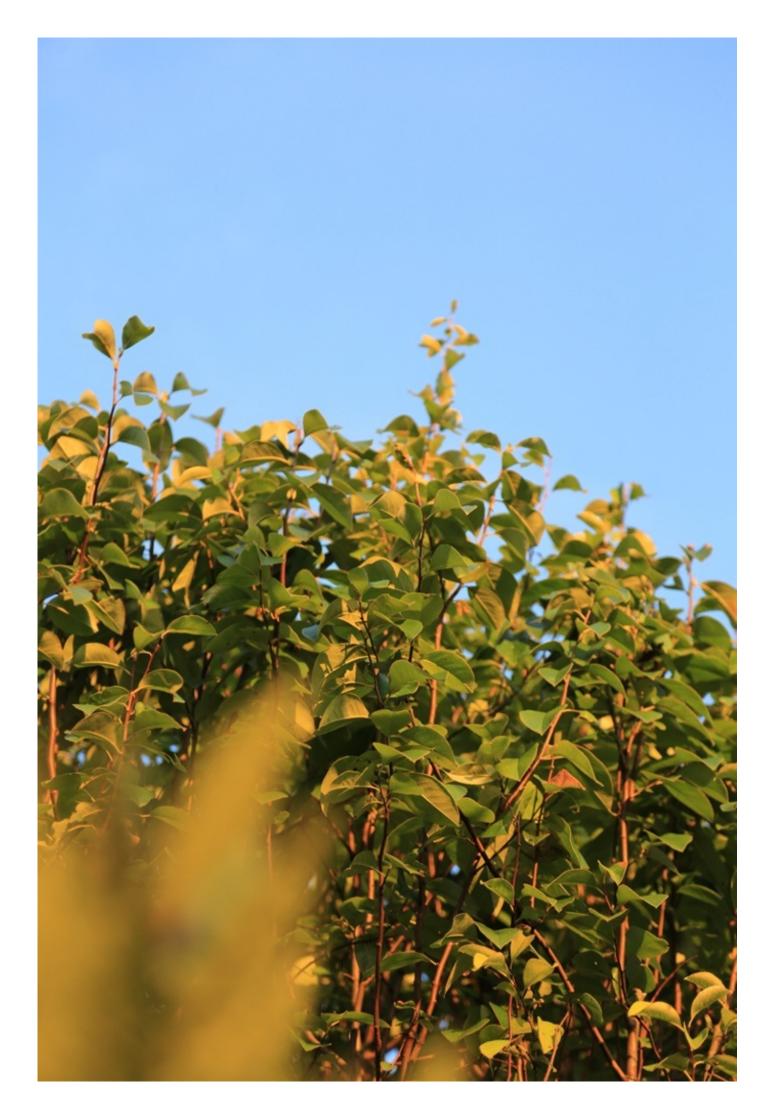


こいつは人が近寄っても逃げない。 他の虫たちは我先に逃げていくのに、こいつだけは逃げない。 やせっぽっちだな。

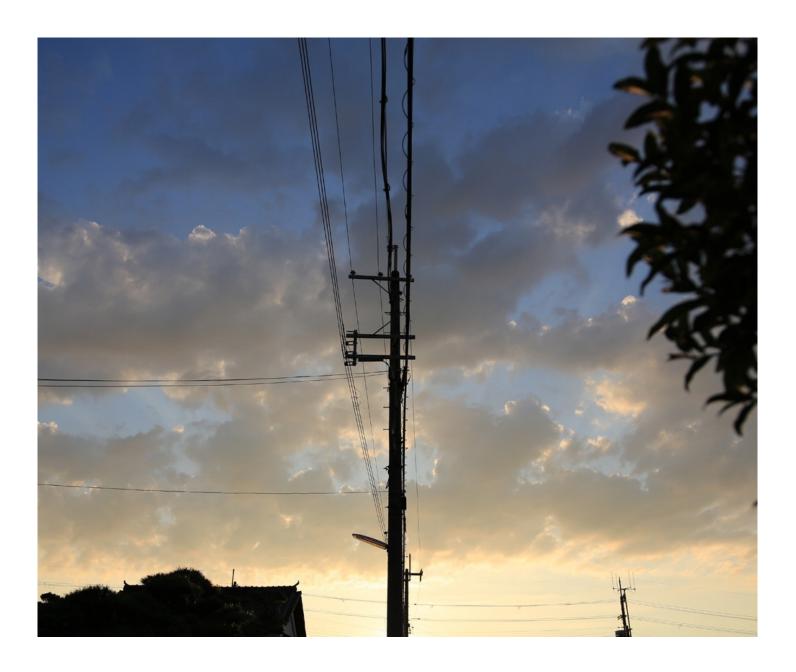


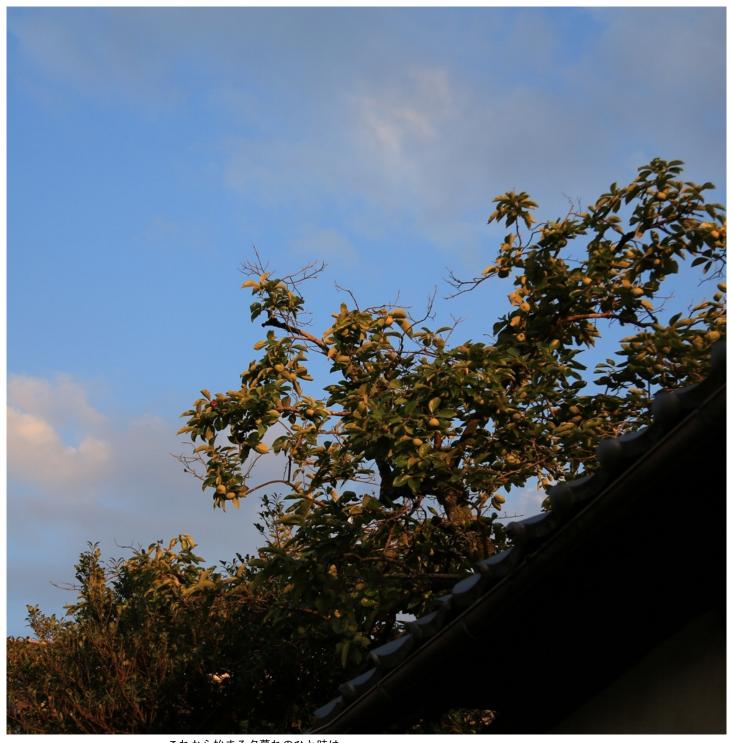
日が傾いてオレンジ色がかってきた。 はるか上を行く、白い点は飛行機。

あと2週間ほどすれば、ツバメたちは上空で旋回を始め、 群れを作って南へと飛んでいく。

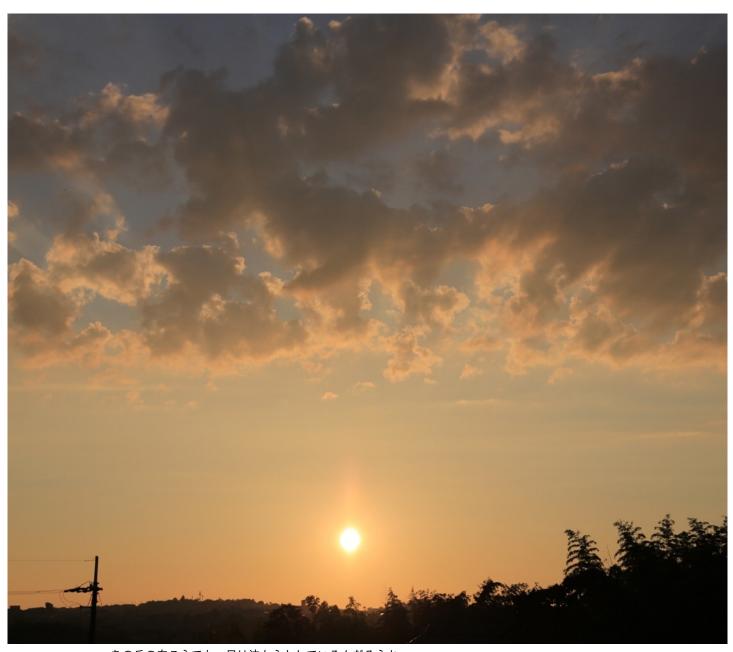


6時過ぎ。そろそろ日が暮れる。

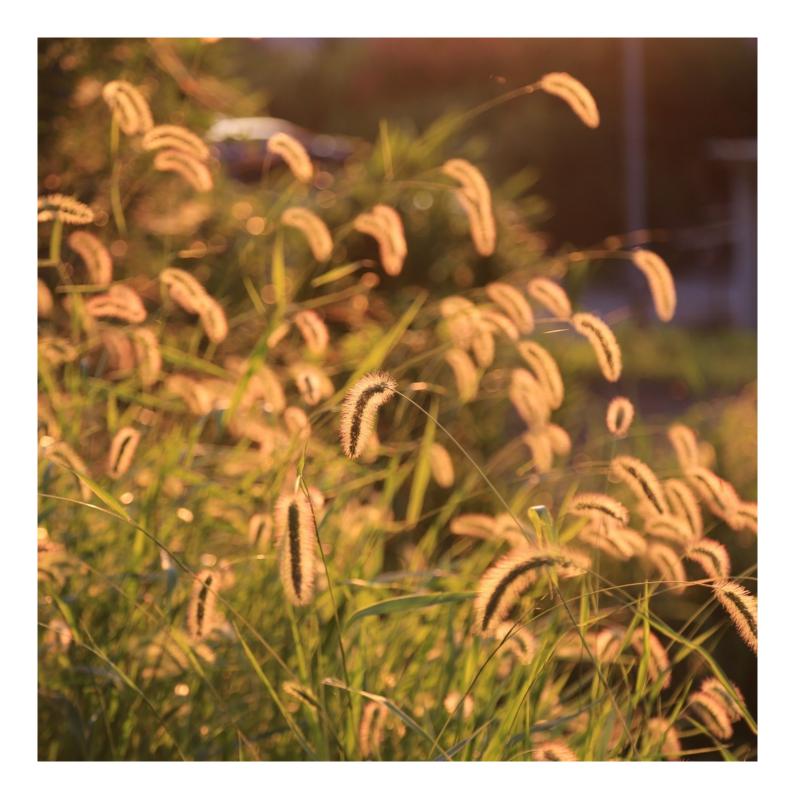


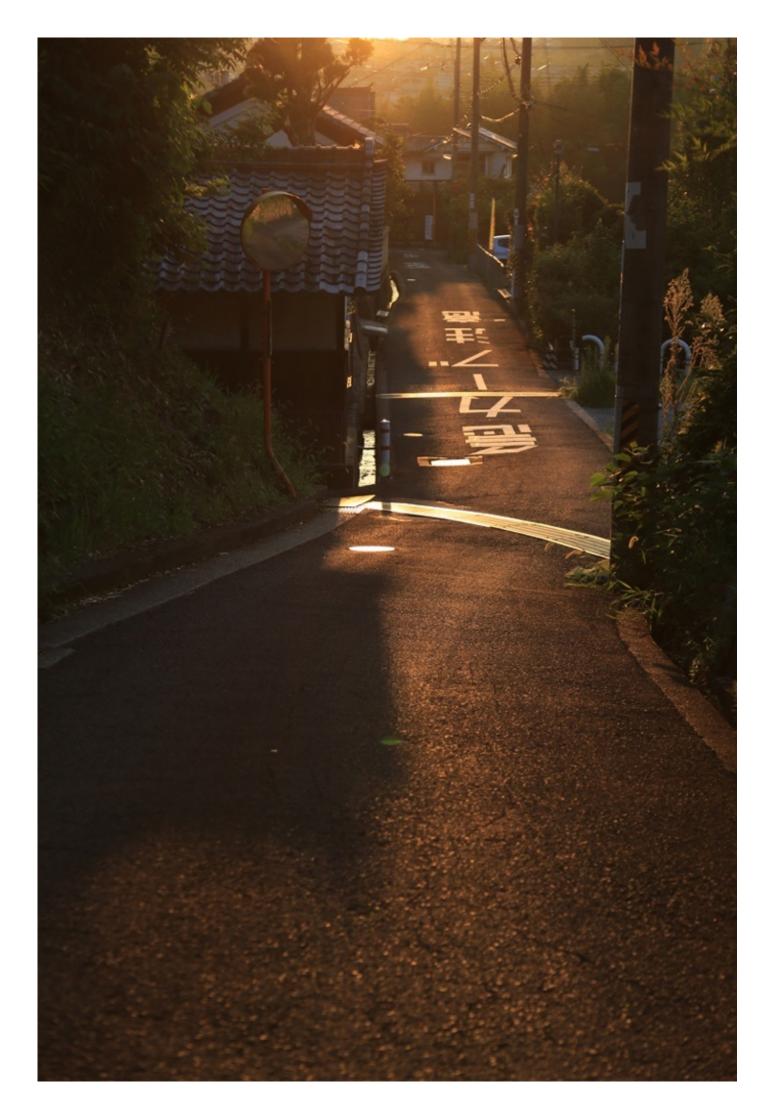


これから始まる夕暮れのひと時は、 街中では見られない風景。 コンクリートやガラスが、ただ無機質に光を反射するのではなく、 生命あるものが全てが、それぞれの色をオレンジに変えていく。 半日の休息に移行する色。



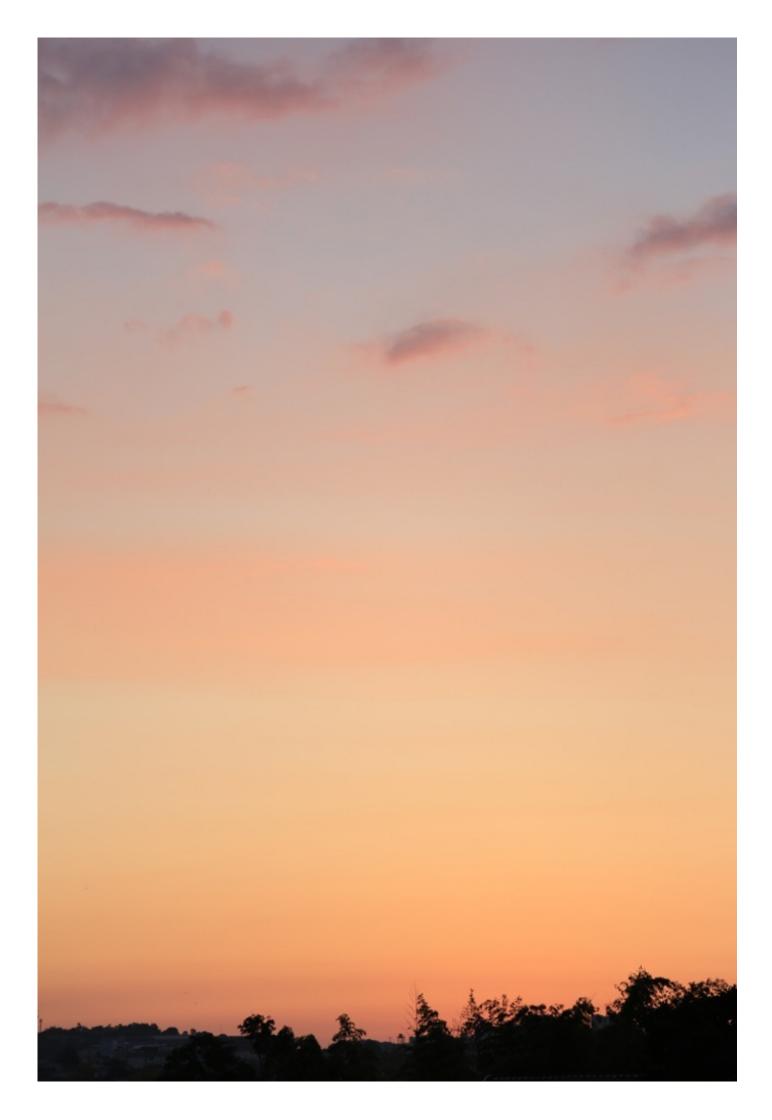
あの丘の向こうでも、日は沈もうとしているんだろうか。 このまま歩いていけば、ずっと夕日の中を歩くんだろうか。 そんなこと、想像してた。

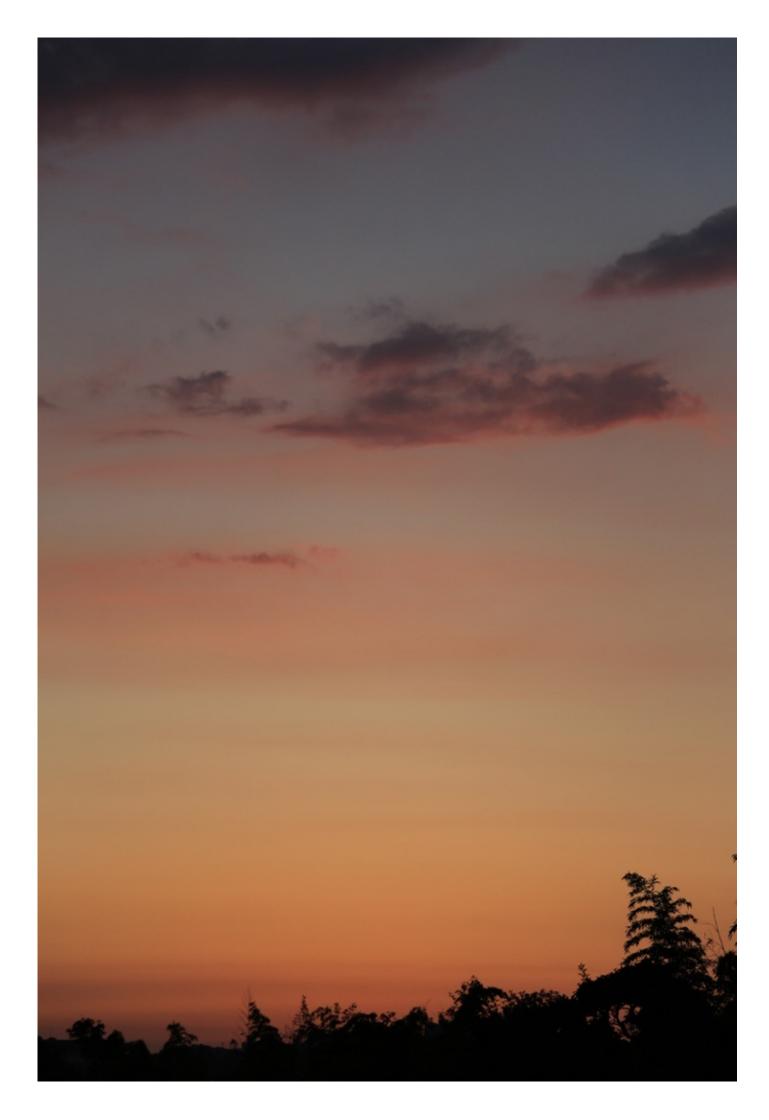


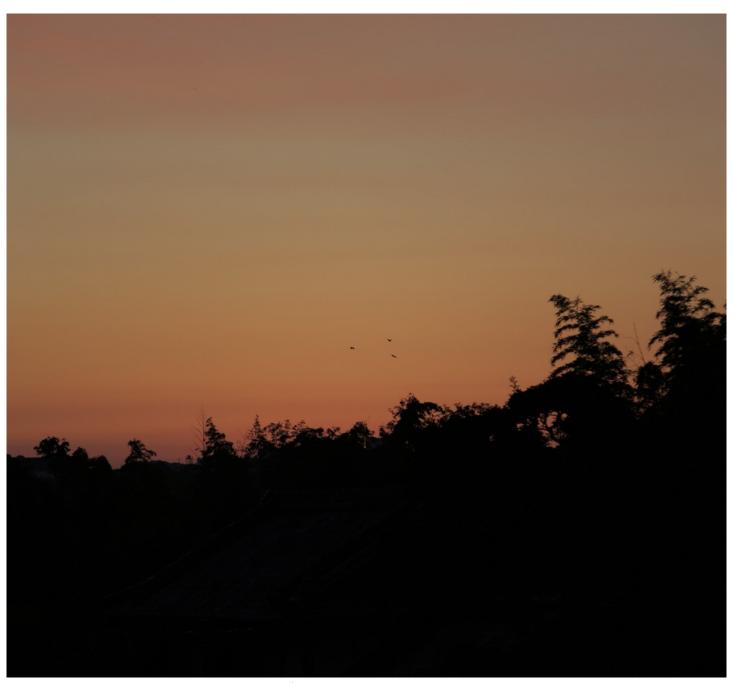




飛行機では、もうベルト着用のサインが出ているだろう。 僕が見る紅い雲を、同じように見ている人はいるだろうか。







そろそろ戻るかな。

真下魚名の既刊

<u>passer un après-midi 11午後の過ごし方</u> 京都路地入-kyotorogie 祇園祭 後編 京都路地入-kyotorogie 祇園祭 京都洛以外-kyoto Lucky guy 三室戸寺 京都路地入-kyotorogie 一保堂 京都路地入-kyotorogie 無鄰庵 茶室 京都路地入-kyotorogie 無鄰庵 京都路地入-kyotorogie 吉田山 サマータイム・ブルーズ2 京都路地入-kyotorogie 一条通 桜守りの庭 後編 Travelogue ep.6 嵐電 後編 Travelogue ep.6 嵐電 梅催い、雨模様 「passer un après-midi 10午後の過ごし方」 冬の手紙2 冬の手紙 空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+4.5 空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+4 ilminaria 2 <u>ilminaria</u> Flower Garden II Travelogue ep.05 山へ行く Flower Garden Travelogue ep.04 蓼科へ <u>passer un après-midi 9 午後の過ごし方」</u> Monochrogue <u>passer un après-midi 8 </u>午後の過ごし方」 <u>passer un après-midi 7 午後の過ごし方」</u> 空と菖蒲と、蓮と 空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+3< 空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+2 Travelogue ep.03 近つ淡海 <u>passer un après-midi 6 午後の過ごし方」</u> Photo「空と窓と、京都水族館はペンギンで一杯です」 「passer un après-midi 5 午後の過ごし方」 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+1」 Photo「花水硝」 「passer un après-midi 4 午後の過ごし方」 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou」 「passer un après-midi 3 午後の過ごし方」 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです Qu」 「passer un après-midi 2 午後の過ごし方」 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです nYa」 「passer un après-midi 午後の過ごし方」 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです na」 「Travelogue ep.02 桜巡り」 ー 僕カノシリーズ ー バックナンバーズ 「僕が彼女に殺された理由(わけ)」 「僕と彼女の選択の事由(わけ)」 「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった」 「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 「僕と彼女と複雑な関係者たち」 「僕と彼女と単純な関係式」

「僕と彼女と校庭で」

「僕と彼女と校庭で 夏」 「僕と彼女のアリア」

「黄金の麦畑」 1.Largo 2.Allegro molto

3.Adajo

「黄昏の王国」

イーリアス編

アリシア編

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです na」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mu」

Travelogue ep.01

Photo 「Hina」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです itu」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです yo」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」

Photo「からくれないに ni」

Photo 「bleu, jaune, vermillion」

Photo [H.45]

Photo $\lceil Fly \text{ me to Paris} \quad I \sim X \, IV \, J$

Photo「祇王 こけのころも」

Photo「空と雨と6月と」

小説

「ネガティブズ2」

<u>「ネガティブズ」</u>

Photo「空と僕と自転車とni」

Photo「空と僕と自転車と」

Photo「空と椿と木蓮と、そして花水木」

Photo「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」

Photo「空と雲と、ときどき春の野を行く」

Photo「空と月と、夜桜デート」

Photo「空と木と、ときどきの梅暦」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」

Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」

Photo「空と木とたまに月」

Photo「からくれないに」

<u>Photo「空と雲と、ときどき月」</u>

<u>Photo「夢みる桜」</u>

- その他 -

<u>傘がない</u>

<u>夕暮れの赤ちょうちん</u>

いもうと

<u>サマータイム・ブルーズ</u>

<u>危険なドライビングマジック</u>

<u>デフラグメント</u>

<u>インフルエンス</u>あのころの僕たち

花舞い、名残り雪

<u>詞画集「ただ憧憬れだけを」</u>

画集 「彼と彼女の表紙画集」